

# 令和7年度 東京すくわくプログラム活動報告

スマイルキッズ桜新町保育園

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

水

<テーマの設定理由>

子供たちの日常の中に当たり前のようにある「水」その特性に触れたり、感じる心を大切に一人ひとりのつぶやきや発見を様々な素材を通して探求していく

## 2. 活動スケジュール

- ・ 3月までの活動の流れを話し合い活動道具等の準備を行った。
- ・ 繰り返し遊び、子供の様子を記録していった
- ・ この姿やつぶやきに合わせて材料や本等を用意していった

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ ダイナミックに活動できるようテラスの整備をして外でも活動できるようにした
- ・ 好きなところで、自分たちで自由に素材を選べるよう可動式の教材棚を準備した
- ・ 活動、季節に合わせて不織布や障子紙、寒天、石鹼、絵具、紙コップ、筆、ストロー等用意した
- ・ 日程を決めて、学年ごとの部屋の扉を開放して広いスペースを作った。

## 4. 探究活動の実績

<活動の内容>

### ○テラスの活動

水遊びから始まり、石鹼・シャボン玉液など子ども達の姿に合わせて、少しずつ材料を変えていきダイナミックに活動していく

雪が降った日には、テラスで子供たちの発想のもと、室内外で変化を観察したり色水を作り雪にかけるなど変化を楽しむ

### ○室内遊び

ペーパータオルを染み込む様子の観察から、少しずつ様々な素材を用意していき水の変化の様子を楽しみ、子どもたちからの発想、リクエストを受けていった。

雨やなど気象にも興味を持ったり、日常の中で水が大切であることに気づき図鑑や絵本などで、探求心を深めていった。

<活動の子ども達の姿・声・子ども同士や子どもと保育士の関り>

・テラスでの水遊び・泡遊び・シャボン玉の液づくりとシャボン玉遊びでは、水に触れる心地よさから始まり、泡の作り方に苦戦するも、水から発生した泡を不思議そうに眺めて、どこまで泡ができるか夢中になって作る姿がみられた。

シャボン玉液ができると、はじめは普通にシャボン玉を吹いていたが、誰かが窓にシャボン玉を付けると面白がって、窓や地面にみんなで吹いてシャボン玉の山を作り泡がどうなっていくのかを観察していた。

少しずつ雨や雪など気象にも関心を持ち、図鑑や本を熱心に見る姿がみられた。東京に雪が降った翌日は、「寒くて雨が雪になったんだよ」「かき氷と一緒にだね」等子ども同士で話し、色水を作り雪にかけ溶ける様子を観察していた

・寒天遊びでは、食紅で色を付けた水のケースと、寒天入りのものと2パターン作った。「なんで違うの?」「魔法の粉だ」と、喜ぶ姿がみられた。

子ども自身が紙コップ・水・絵の具を用意して、始めは一色ずつ出して色水を作っていたがそのうちに紙コップから紙コップに移して、色の調合をし始め色の変化を何色も作っていた。様々な素材を使い、染み込ませたり、手形を押したり、思い思い活動をしていた。

<活動の様子>





## 5. 振り返り

- 生活の中で水の大切さを知ることができた。
- 水の変化の多様性を知り、子どもたちが主体的に水を使った活動を行うようになった。
- 色水の調合の変化・表面張力など、科学的な発見が多くあった。
- 水→雨→気象・植物・食べ物・生き物等に繋がっていった
- 異年齢の子も興味・関心を持ち、3, 4, 5 歳幼児クラス全体に活動が広がっていった